

# GOVERNANCE

## ガバナンス

# コーポレート・ガバナンス

### コーポレート・ガバナンス体制につきまして

当社のコーポレート・ガバナンスは、経営を迅速かつ公正に行うための社内機構であり、監査機関を設置し第三者視点のチェック機能により透明性の確保および経営の質の向上を目指すものです。

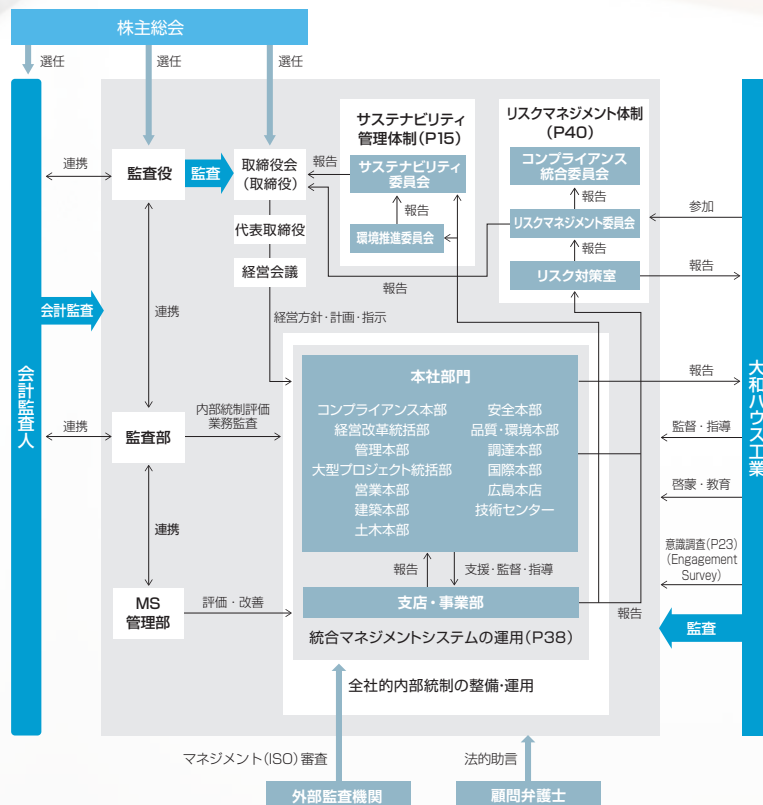
当社では取締役、執行役員、監査役および従業員全員が「経営判断の原則」、企業行動憲章および企業行動基準を正確に理解し、各々の立場で判断・行動することが大切であると考えています。また、リスクマネジメント体制として、各種審議会でリスクの分析・検証・評価を行うとともに、顕現したリスク事象に対しては、リスクマネジメント委員会、各主管本部ならびに監査部門が連携して、対応策・再発防止策の策定と実施に取り組んでいます。

引き続き、基礎を強固なものとしつつ、不透明な事業環境に動じない内部統制体制およびリスクマネジメント体制を構築してまいります。

取締役常務執行役員  
コンプライアンス本部長  
**中井 雅章**



コーポレート・ガバナンス体制図



## ■ ガバナンスの監視 内部統制評価と業務監査

監査部が行う業務監査では、法令および規程、全社的  
内部統制などに則った業務が遂行されているか、支店・事  
業部・グループ会社を対象に、ヒアリング、書類確認を実施  
しています。監査の結果、改善すべき指摘事項は、当該  
部門に原因と対応策（再発防止策）の提出を求めるととも  
に、主管部門による指導・改善につなげています。

2024年度は支店・事業部、関係会社25部門の監査  
を行いました。課題を踏まえ2025年度は従来の監査の  
ほか、「労働安全衛生」「建設業法」など、20課題30項目  
（作業所）、15課題26項目（支店・事業部）の自主点検  
項目を設定し展開します。

## 統合マネジメントシステム

### ■ 目標達成と製品・活動の適合性を確保するマネジメント

前述のガバナンス体制を踏まえ、各部門が目標達成と製  
品・活動の適合性を確保する経営および業務運用プロセス  
が「フジタマネジメントシステム」です。営業、設計、工事、調  
達、技術、研究など、すべての部署の業務はマネジメントの  
要素でもあり、それぞれ目標達成とトラブル回避が必須で  
す。そこで規格認証に沿って、部門ごと、また品質、環境、安  
全ごとに行われていた運用を改善し、①安全、品質、環境ほ  
かすべての業務を扱う（マネジメント要素の統合）、②本社、  
支店などを含む全社一体で運用する（組織の統合）、③当社  
の日頃の業務プロセスに規格要求事項を当てはめる（業務  
の統合）の3点を実施し、運用しています。

2020年度からはマネジメントの目的も、「目標達成とリ  
スクの回避」へと転換し、それにともなうマニュアル類の改  
訂、マネジメント教育の体系化、重大な品質事故につなが  
る施工プロセスの改善、事故報告の情報システム化、品質  
施工プロセス監査、GRI/EcoVadisやグローバル・コンパ  
クトなどESG・SDGsと連動するマネジメント要素の取り込  
み、目標設定・評価とマネジメントレビューの統合運用など  
を継続的に展開しています。

2024年度は、国際全4部門でマネジメントレビューを  
含む本格運用を開始しました。またISO 19650に基づく  
BIM、Buildee、セールスフォースなど、新たに導入された  
情報ツールとの整合性をレビューしました。

2025年度は、品質事故を予防する「業務フロー・プロ  
セス」の見直し・改定、国際部門マネジメントシステムの現  
地化に取り組みます。

### ■ マネジメントシステムの運用・内部監査・ マネジメントレビュー

当社のマネジメントシステムは、マニュアルや要領に従

い、要求事項や社会的課題からリスクと機会を見極めて目  
標を設定し、活動と成果を評価の上、継続的に改善してい  
ます。2024年度はシナリオ分析・重要課題を更新し、部  
門目標に展開したほか、「環境リスク要因特定表」の更新、  
太陽光発電事業の追加登録、運用変更にもなう様式改定  
を行いました。

作業所では「基本計画書」「工事安全衛生計画書」で、  
安全・品質・環境リスクを抽出し、目標または管理項目とし  
て運用しています。

運用状況や成果を確認・改善する内部監査では「業績達  
成のためのマネジメント」「事故・災害・トラブルを回避する  
マネジメント」を方針に掲げ、気候変動など8項目の重点項  
目を抽出し、「内部監査チェックリスト」に展開しました。

「内部監査チェックリスト」は2022年度から「目標達成  
の課題抽出」「業務プロセス運用の確認」「課題と原因の  
深掘り」を重視した項目と内容に厳選、改定していますが、  
2024年度は4～4.1版を運用し、各部門合わせて237件  
（内勤138件、作業所99件）の内部監査を実施し、目標  
設定、業務プロセス、環境課題など、不適合28件、観察  
事項69件、改善提案94件、好事例46件を挙げ、部門ご  
とに内部監査報告会を実施改善しました。

なお一連の「内部監査チェックリスト」改善は、「目標  
達成に向けた内部監査の改善とその効果」にまとめ、バ  
リュー・カンファレンス2023でベスト・プレゼンテーショ  
ンを獲得したほか、2024年度はVE協会誌「バリュー・エ  
ンジニアリング第327号」への掲載、審査機関の審査員研  
修でも発表報告しました。

2025年度は事故分析、内部監査報告会、マネジメント  
レビュー、業務監査結果を踏まえ、「業務フロー・業務プロ  
セスに基づくマネジメント」など3項目を内部監査方針に掲  
げ、安全、品質、労働環境/エンゲージメント、環境、気

候変動など8項目の重点項目を抽出し、展開します。

目標達成や運用を評価・改善するマネジメントレビューは、各部門、経営層がそれぞれ年2回実施します。前期の課題を踏まえて2024年度は、「安全」「品質」「労働環境/労働時間」「業績」「GX/環境」「法令遵守/マネジメントシステムの見直し」「フロントローディング」「強みをつくるDX」「人財戦略/エンゲージメントの向上」の9課題（下期は6課題に統合）について、社長指示事項を発信し、活動に反映、展開しました。

2025年度は、「安全」「品質」「業績」「DX」「GX/人財/コンプライアンス」に加え、「業務フロー・プロセスの運用」の6課題を社長指示事項として展開しています。

このほか審査改善項目を含めて、気候変動など22課題28項目の運用課題に取り組み、延べ13文書を改訂または準備しました。

### ■ マネジメントシステムと外部認証

現在フジタ全部門一括で、ISO9001（品質）、ISO14001（環境）、ISO45001（安全）規格の認証登録を一般財団法人建材試験センターから受けています。同センターによるフジタのマネジメントシステム統合度判定は最高ランクで、審査も統合審査方式で行われています。

2024年度の審査では「事務管理部門のマニフェスト管理」についての観察事項1件、推奨事項15件、日々の検出事項があり、それぞれ処置・再発防止策を実施しました。

このほか、品質を支援するマネジメントの一環として、ISO19650（BIM）の認証登録を受けています。関係会社3社、海外5拠点でも独自に認証登録しています。

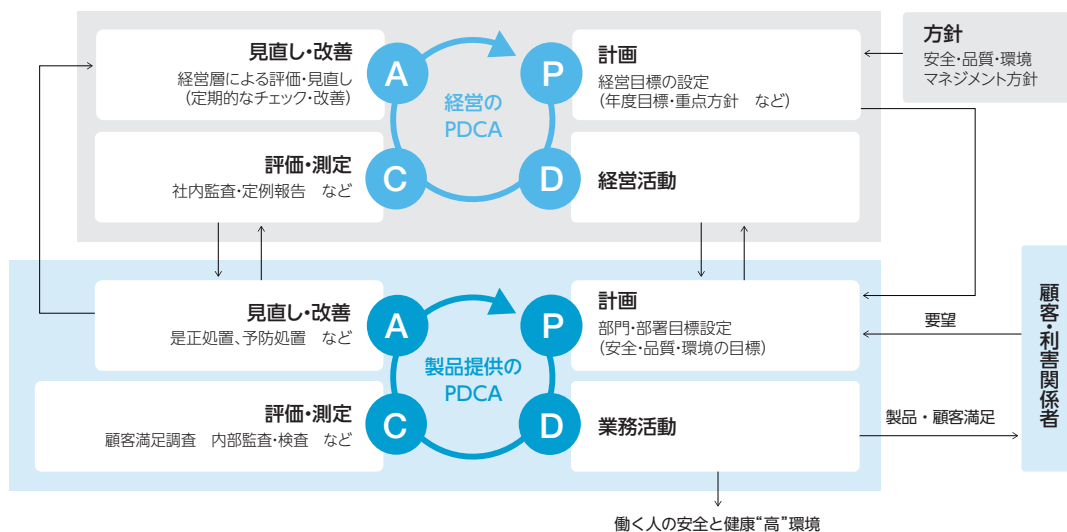
### ■ 品質事故とマネジメント改善

2021年度の重大な品質事故では、技術上の処置対応もさることながら、工事再開にあたって、施工プロセス上の分析を踏まえた再発防止策をお客さまから求められるようになりました。これをきっかけに2022年度から品質・環境本部に建築・土木検査業務を移管したほか、品質監理部を新設し、施工プロセス監査を運用しています。

事故分析では、関係部門・部署が連携し、技術上、施工プロセス上の課題を踏まえ、再発防止を展開しています。

2024年度は「信頼される品質」をスローガンに掲げ、重大品質事故度数率0.1未満を目標に、関係部署が連携しながら本部を含めた検査・パトロールの充実、品質・環境・物損、安全など、事故・災害の即時報告システムの変更を実施しました。しかしながら複数の品質事故も発生したことから、品質事故を予防するプロセスとして「業務フロー（受注・業績フロー）」を改定しました。

2025年度は「すべて即時報告!」をスローガンに加え、重大品質事故度数率0.15未満、利益損失率0.15%以下を目標に、品質確保のためのフロントローディング、「業務フロー」をはじめとする施工管理プロセスの遵守徹底とチェックほかに取り組みます。



安全・品質・環境マネジメント方針  
<https://www.fujita.co.jp/company/charter/?open=Management#Management>